

令和2年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(男鹿市)

1 市の概要(人口 26,593 人)※令和3年1月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和2年4月1日現在)						
幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
2園	0園	0園	7か所	1園	0園	6校

その他:へき地保育所 児童館 小規模保育 事業所内1 認可外

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題
<p>(1) 教育・保育アドバイザーの継続的な支援のもと、保育者の研修意欲の高揚を発展させ、就学前教育・保育の推進体制を定着させていくことが課題である。</p> <p>(2) 市教育委員会指導主事と教育・保育アドバイザーの連携による接続を見通した教育課程の編成を目指し、接続期の質の高い教育・保育体制の充実・強化が必要である。</p>

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目的(3年間)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・保育アドバイザーが継続的に園への巡回訪問及び助言を行い、保育の質の向上を図る。</li> <li>・教育・保育の専門家を活用した研修会等の実施により、キャリアステージに応じた人材育成を目指す。</li> <li>・小学校への円滑な接続に関する研修会・事業の拡大を実現する。</li> </ul>	
主な内容(3年間)	
<p>(1) <b>教育・保育アドバイザーの配置</b> 市に教育・保育アドバイザーを配置し、各就学前施設の課題解決に向けた継続的な支援と、県の教育・保育アドバイザーと連携しながら、課題解決に向けた方策を探る。</p> <p>(2) <b>教育・保育アドバイザーによる市内就学前施設の指導・助言</b> 教育・保育アドバイザーによる訪問指導、園内研修の支援、ミドルリーダーの育成、保育者の面談によるきめ細かな指導・助言を行う。県と連携した保育の継続的指導を行う。</p> <p>(3) <b>市内就学前施設等の職員研修会の実施</b> キャリア別研修などにより、人材育成や保育者の専門性の向上を図る。各施設の課題の共有及び解決への過程を県指導主事、県教育・保育アドバイザーと連携し、継続的に導いていく。</p> <p>(4) <b>公開保育研修会を核とした学び合う体制づくり</b> 市内就学前施設の公開保育により、各園の良さや課題の明確化をし、施設間での交流体制を作る。また、市内施設、小学校、及び近隣市町村と地域で学び合う体制を構築する。</p> <p>(5) <b>県との連携体制の活用</b> 県の就学前教育推進協議会、県主催の研修、教育・保育アドバイザー連絡協議会に参加し、教育・保育アドバイザーの質の向上を図ると共に、地域での教育・保育推進の支援、情報共有、活動を円滑に行う。</p>	
年度別重点	
令和元年度	公開保育研修会等による地域で学び合う体制づくり（近隣の小学校や近隣市町村への研修会の提供）、キャリア別研修などにより、人材育成や保育者の専門性の向上を図る。
令和2年度	公開保育研修会等による地域で学び合う体制づくり【2019年度からの継続】 小学校教育への円滑な接続に向けた研修の充実と教育課程の編集・実施
令和3年度	公開保育研修会等による地域で学び合う体制づくり【2020年度からの継続】 教育・保育の専門家を活用した研修会等の継続実施により、キャリアステージに応じた人材育成を目指す。 小学校への円滑な接続・事業の拡大を実現する。

#### 4 令和2年度の実施内容

**目的**

教育・保育アドバイザーの各園巡回指導及び助言により、各園の課題解決に寄り添ったきめ細やかな支援を継続し、保育者の研修意欲の高揚の発展と保育の専門性の向上を図る。

教育・保育アドバイザーによる職員個人面談を実施し、一人一人が抱えている悩みや気になっていることに寄り添うことで保育者の内面を支え、応援していく体制づくりに努める。

現場において必要としている研修を提供することで、保育者の専門性の向上を図る。

市教育委員会学校教育課指導主事等と、接続を見通した教育課程の編成、実施に向けた意見交換などの連携を充実する。

**実施内容及び実施状況<成果○と今後の課題●と◇改善の方策>**

- ①教育・保育アドバイザーの配置
- ・円滑な幼保小接続のための就学前教育の質的向上を図るため、市内就学前施設への巡回指導・助言を実施する。
  - ・市内就学前施設等の職員研修会や公開保育研究会において、指導助言を行う。
  - ・教育委員会学校教育課指導主事等と接続を見通した教育課程の編成、実施に向けた意見交換などの連携を充実する。
- 担当課から教育委員会へ働きかけ、各小学校での幼保小連絡協議会に同席させていただくことができた。
- 教育課程、保育課程の編成に向けた教育委員会学校教育課指導主事との意見交換等の実施、実現には到っていない。
- ◇接続期の重要性の認識を共有するために教育委員会学校教育課指導主事等との連携に努める。
- ◇幼保小においても接続期の重要性が共有できるように様々な機会を通して働きかけていく。
- ②教育・保育アドバイザーによる市内就学前施設の巡回指導・助言
- ・教育保育アドバイザーによる公私立幼稚園、保育園等の訪問指導により、各園の保育指導、園内研修支援、研修リーダー育成、保育者の面談によるきめ細かな指導助言を行う。
- 【アドバイザーによる巡回訪問等実績（男鹿市）】

派遣実績 計16施設/教育保育施設10施設 小学校6施設 131回	
回数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園：市立1園（10回）、私立1園（11回）</li> <li>・保育園：市立6園（83回）</li> <li>・保育所型認定こども園：市立 1園（14回）</li> <li>・その他の施設：（事業所内保育施設 1か所（2回）</li> <li>・小学校：6校（11回）</li> </ul>
訪問内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（実績のうち、9園（99回）</li> <li>・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（実績のうち、8園（10回）</li> <li>・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（実績のうち、9園（55回）</li> <li>・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（実績のうち、9園（27回）</li> <li>・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（実績のうち、9園（9回）</li> <li>・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（実績のうち、8園（9回）</li> <li>・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（実績のうち、6校（11回）</li> <li>・特別支援訪問（実績のうち、7園（9回）</li> </ul>
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市内の公私立幼稚園・保育園正職員との個別面談を実施し、アドバイザーの存在が職員の「安心」につながる事ができるよう努めた。</li> <li>○継続的に訪問支援することで、保育者や園児の変容を追っていくことができた。それぞれの成長や頑張っている姿を伝え、自信へとつなげてきた。</li> <li>○園内研修や市主催の各種研修への積極的な参加が見られ、自身の保育や園へのフィードバックとなっている。</li> </ul>

<p>●個人面談について、臨時職員や他業種職員とは未実施となっている。保育を支えてくれているそれらの職員ともより連携を深めることで、園全体の質が向上すると思われる。</p> <p>●指導案や記録の記入の仕方には個人差がある。保育の振り返り時等で具体的に伝えているが、改善が難しいケースもある。</p> <p>●園内研修においては、園によって取り組み方が違う。また、参加者のモチベーションやスキルも違う。一人一人のキャリアやパーソナリティを尊重しつつ全体の底上げが必要ではないか。</p> <p>◇次年度の個人面談は、継続してきめ細やかな支援が全体に出来るように対象者をリーダー保育士と異動職員を計画している。</p> <p>◇多くの職員が悩みながら日々取り組んでいる指導案作成や記録記入の仕方についての研修会を予定している。</p> <p>◇園訪問において、保育参観と保育の振り返り、園内研修と研修の振り返りをその都度セットで行うことを年度当初に周知していくようにする。</p>
---

③市内就学前施設等の職員研修会の実施

- ・ミドルリーダー研修、新任者研修、担任研修などの研修により、保育者の専門性の向上、各施設の課題の共有及び解決への過程を秋田県指導主事、秋田県教育・保育アドバイザーと連携し継続的に導いていく。

【保育補助研修会】

令和2年5月27日（水） 13：00～15：30 参加者：8名

令和2年5月29日（金） 9：30～11：30 参加者：10名

令和2年6月 2日（火） 13：30～15：30 参加者：10名

講話：「園での子どもへの関わりについて」

講師：男鹿市健康子育て課 教育・保育アドバイザー 泉 文子

教育・保育アドバイザー 高野桂子

○職員としての基本的な態度や服装、言葉使い等について学び合うことにより、乳幼児施設で働く職員としての自覚が高まった。

○一緒に保育をしている担任や子どもとの関り方を意識しながら考えて働くようになった。

●今後は「保育補助として保育士等との連携について」の研修が必要と思われる。

◇巡回の機会に保育士と同様、必要に応じた保育補助への支援も行う。

【フレッシュ職員研修】

令和2年7月7日（火） 13：00～16：00 参加者：11名

講義演習：週日案の書き方について

講師：秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員：尾形眞紀子 氏

教育保育アドバイザー：佐藤博英 氏

○指導案作成にあたり、悩んでいたことや曖昧にしてきたことが解決できつつある。園訪問において研修を受けた保育者の指導案の書き方や保育の見方が徐々に改善されてきている。

○演習では他園の指導案を持ち寄り見合ったり指導案を作成したりしたことで、自園の指導案に反映することができたという後日談があったことから研修の成果は大きかった。

●指導案の書き方については個人差が大きい。そのためフレッシュ職員に限定せず、研修対象者を全保育者に広げていくことが必要である。

●指導案に基づく保育実践の振り返りや評価の仕方が弱い。今後は保育の振り返りや評価について学ぶことが必要と思われる。

◇研修後の研修者の姿や行動に成果が見られたことから、次年度は全職員を対象とした研修を予

定している。

**【保育実践力向上研修（全体研修）】**

令和2年10月10日（土）10：00～11：30 参加者：56名

演題：「特別な配慮を必要とする子どもの理解と手立てについて

～一人一人特別でない特別支援の円滑な移行～

講師：秋田県立支援学校天王みどり学園 教諭（兼）教育専門監 新目敏子 氏

○アンケートから、インクルーシブ教育とは、個別指導（支援）計画の必要性、発達障害への理解と支援等について学ぶことができた。また、保護者と連携しスムーズな就学につなげていきたい、愛着関係を構築していきたい等、今後の自分の保育の方向性を再確認することができたという内容の記述が多く、意識の高まりを読み取ることができた。

●より多くの職員が参加できるように、今後は研修環境の在り方についてリモート研修を含め検討が必要と思われる。

◇一堂に会しての研修の在り方を検討する。

**【ミドル職員研修】**

令和2年11月10日（火）13：30～16：00 参加者18名

講演：園を支えるリーダー職員として

講師：秋田県教育庁幼保推進課 主任指導主事：佐藤伸剛 氏

○アンケートから、「ミドルリーダーに求められている資質や行動等について具体的に学ぶことができた」「今後はしっかりとした自分でありたい」等という意見が多く、保育の質を高めていくためミドルとしての意識が高まった。

●学んだことが生かされるよう園訪問において個々を応援していくことが必要である。

◇今回受講しなかった職員を対象とし、ミドルリーダーの育成を継続する。

**④公開保育研修会の実施を核とした学び合う体制づくり**

・市内就学前施設の保育公開により各園の課題を明確化し、施設間での交流体制をつくることで、市内施設、小学校、及び近隣市町村との地域で学び合う体制を推進する。

**【公開保育】**

・協本保育園 令和2年 9月10日（木）

・五里合保育園 令和2年12月 4日（金）

・船川保育園 令和2年12月16日（水）

○今年度初めて教育委員会の理解を得ながら幼保小連携協議会に同席することで、円滑につなげていくための体制づくりにつながったと思われる。

○公開保育は感染症拡大防止のため参加者を市内に限定し参加人数を制限しての開催としたが、小学校からの参加があり幼稚園や保育園の理解につながった。

○保育実践力向上研修会に市内6小学校から2校の参加があり地域で学び合う体制が芽生えつつある。

●公開保育への参加は各小学校でばらつきがありPR方法の検討が必要である。

●公開保育等における1年生担任や低学年担任の参加について検討が必要である。

◇教育委員会学校教育課と連携を取りながら就学前教育合同研修会（仮名）の実施の検討。

◇公開保育日、出席依頼とともに、午前の保育参観のみではなく午後からの協議への参加もいただくよう働きかけていく。

**⑤県との連携体制の充実・活用**

・秋田県の協議会、研修会、連絡会に参加し、県指導主事、県教育・保育アドバイザーとの支援、連携体制のもと、アドバイザーの質の向上、研修により、地域での教育保育体制の支援、情報共有、活動を円滑に行う。

○指導主事要請訪問に同行したり、県アドバイザーから指導助言を受けたりしたことにより、「伝え方のポイント」や「保育の見取り方」を学ぶことができた。訪問の際の指導助言の参考とな

っている。

○アドバイザー連絡協議会や各種研修では、アドバイザーとして園内研修の取り組み方等について学ぶことができた。

●要請訪問における資料や指導案作成において、各園によって取り組み状況や考え方が様々であることから伝え方やアドバイス等が難しい。

◇県との連携を密にしながら様々な事柄について確認したり教えていただいたりしながら進めていく。

## 5 令和3年度の事業の構想

目的							
キャリアステージに応じた人材育成に努め、男鹿市全体の保育の質の向上を図る。							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各園巡回訪問の継続やキャリアに応じた研修会等の充実</li> <li>・一人一人の職員の心に寄り添い、働きがいのある職場づくり</li> <li>・小学校への円滑な接続のための研修会や教育課程や保育課程の編成に向けた取り組み</li> </ul>							
実施内容							
①教育・保育アドバイザーの配置							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・円滑な幼保小接続のための就学前教育の質的向上を図るため、市内就学前施設への巡回指導・助言を継続する。</li> <li>・各小学校での幼保小連絡協議会への参加を継続するほか、幼保小においても接続期の重要性が共有できるように様々な機会を通して働きかけていく。</li> <li>・接続期の重要性の認識を共有するために教育委員会学校教育課との連携を図り、幼保小合同研修会を開催する。</li> </ul>							
②教育・保育アドバイザーによる市内就学前施設の巡回指導・助言							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育保育アドバイザーによる公私立幼稚園、保育園等の訪問指導により、各園の保育指導、園内研修支援、研修リーダー育成を実施する。</li> <li>・面談対象をリーダー保育士と異動職員とし、きめ細かな指導助言を行う。</li> <li>・保育参観と保育の振り返り、園内研修と研修の振り返りをその都度行い、保育の見方や捉え方、環境の構成やあり方などについて自ら気づいたり職員全体で気づいたりできるように、丁寧にわかりやすく伝えていくようにする。</li> </ul>							
【巡回訪問・指導に関する、派遣目標】							
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr style="background-color: #d9ead3;"> <th style="width: 10%;"></th> <th style="text-align: center;">派遣目標 計15施設／教育保育施設9施設 小学校6施設 116回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">回数</td> <td style="padding: 2px;">                             ・幼稚園：私立1園（10回）                              ・保育園：市立6園（80回）                              ・保育所型認定こども園：市立 1園（12回）                              ・その他の施設：（事業所内保育施設 1か所（2回）                              ・小学校：6校（12回）                         </td> </tr> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center; vertical-align: middle;">訪問内容</td> <td style="padding: 2px;">                             ・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（実績のうち、9園（96回）                              ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（実績のうち、3園（10回）                              ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（実績のうち、9園（10回）                              ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（実績のうち、9園（18回）                              ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（実績のうち、9園（16回）                              ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（実績のうち、8園（8回）                              ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（実績のうち、6校（12回）                              ・特別支援訪問（実績のうち、8園（8回）                         </td> </tr> </tbody> </table>			派遣目標 計15施設／教育保育施設9施設 小学校6施設 116回	回数	・幼稚園：私立1園（10回） ・保育園：市立6園（80回） ・保育所型認定こども園：市立 1園（12回） ・その他の施設：（事業所内保育施設 1か所（2回） ・小学校：6校（12回）	訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（実績のうち、9園（96回） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（実績のうち、3園（10回） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（実績のうち、9園（10回） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（実績のうち、9園（18回） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（実績のうち、9園（16回） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（実績のうち、8園（8回） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（実績のうち、6校（12回） ・特別支援訪問（実績のうち、8園（8回）
	派遣目標 計15施設／教育保育施設9施設 小学校6施設 116回						
回数	・幼稚園：私立1園（10回） ・保育園：市立6園（80回） ・保育所型認定こども園：市立 1園（12回） ・その他の施設：（事業所内保育施設 1か所（2回） ・小学校：6校（12回）						
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（実績のうち、9園（96回） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（実績のうち、3園（10回） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（実績のうち、9園（10回） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（実績のうち、9園（18回） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（実績のうち、9園（16回） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（実績のうち、8園（8回） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（実績のうち、6校（12回） ・特別支援訪問（実績のうち、8園（8回）						

理	派遣目標として、各園月1回以上訪問指導し、保育実践や振り返りなどを指導し、保育力の向上を図る。事業所
由	内保育へも訪問し保育や環境等の状況の把握に努める。入学する小学校へも訪問し、連携の理解を進める。

③市内就学前施設等の職員研修会の実施

- ・ミドルリーダー研修の継続により現場の人材育成を図る。
- ・指導案の書き方について、研修対象者を担当年齢に分けたうえで全ての保育者に広げて実施し、保育実践力の向上を図る。

④公開保育研修会の実施を核とした学び合う体制づくり

- ・3園による公開保育を実施し市内施設、小学校、近隣市町村との地域で学び合う体制を推進する。
- ・幼小接続について共有できる場となるよう、小学校からの保育参観、協議参加について事前に参加の働きかけをする。
- ・教育委員会学校教育課と連携を取りながら接続に関する就学前教育合同研修会（仮名）の開催に向けて準備を行う。

⑤県との連携体制の活用

- ・秋田県の協議会、研修会、連絡会に参加し、県指導主事、県教育・保育アドバイザーとの支援、連携体制のもと、アドバイザーの質の向上、研修により、地域での教育保育体制の支援、情報共有、活動を円滑に行う。
- ・他市アドバイザーの指導助言に学び、市の巡回指導に役立てる。